

図書紹介

今号の図書紹介は、「Now the Face」にご登場いただいたお二人の先生からの推薦図書をご紹介します。



顔認証の教科書
明日のビジネスを創る最先端AIの世界
今岡 仁 著
ISBN-10 : 483342438X
ISBN-13 : 978-4833424387
発売 : 2021年11月
定価 : 1,600円 (本体)
発行所 : プレジデント社



この顔と生きるということ
岩井 建樹 著
ISBN-10 : 4022516224
ISBN-13 : 978-4022516220
発売 : 2019年7月
定価 : 1,400円 (本体)
発行所 : 朝日新聞出版

第28回日本顔学会大会 (フォーラム顔学2023) のご案内

大会日程 : 2023年10月14日 (土)、15日 (日)
大会会場 : つくばカピオ (つくば市)
参加費 : 一般 (会員) : 5,000円、一般 (非会員) : 10,000円、大学院生・大学生以下 (会員/非会員) : 3,000円

大会サイト https://www2.jface.jp/forum2023/

◆大会組織

- ◆大会長 : 鈴木 健嗣 (筑波大学)
◆プログラム委員長 : 松田 壮一郎 (筑波大学)
◆実行委員 : 永田 毅 (筑波大学)、小山 慎一 (筑波大学)、廣川 暢一 (筑波大学)、大木 美加 (筑波大学)
◆企画委員 : 青木 義満 (慶應義塾大学)、小森 政嗣 (大阪電通大学)

スケジュール (予定)

● 1日目 10月14日 (土)

Table with 2 columns: Time and Event. Events include opening, presentations on facial medicine, special sessions, and a general assembly.

● 2日目 10月15日 (日)

Table with 2 columns: Time and Event. Events include networking, presentations on facial psychology and cosmetics, special sessions, and a closing ceremony.

\*2023年度総会は第1日目17:15から行います。会員の方はご出席ください。
\*今大会は対面とオンラインのハイブリッド形式で開催予定ですが、最新情報は大会サイトをご確認ください。

ご意見・ご感想募集中

ニュースレターでは読者のみなさまのお声をお待ちしております。ニュースレターHPのご意見・ご感想フォーム (下記URLまたはQRコード) よりお寄せください。みなさまと一緒に親しみやすく楽しい紙面づくりを目指してまいります。
https://www.jface.jp/jp/newsletter



メンバー募集中!

J-FACE NEWS LETTER 日本顔学会ニュースレター 82号

5 OCTOBER 2023 Vol.82 https://www.jface.jp



Contents

- P1. Now the face フォーラム特別講演者特集!
P2. 顔学オンラインサロン報告/日本顔学会関西支部研究会報告
P3. 美人画研究会報告/化粧文化研究者ネットワーク研究会報告
P4. 図書紹介/フォーラム顔学2023のご案内



【フォーラム顔学2023 特別講演】日時予定 : 2023年10月15日 (日) 15 : 10~
石田 祐貴氏 (筑波大学人間系研究員・筑波大学人間総合科学研究科博士後期課程)

◆プロフィール

1992年に大阪府にて生まれる。生まれつきの顔面の骨の形成不全が特徴的な症状としてみられるトリーチャーコリンズ症候群の当事者。現在は筑波大学で障害科学を専攻し、聴覚障害児・者の教育・心理に関する研究に取り組む。研究活動に励む傍ら、これまでの自身の経験を通じて、見た目問題や聴覚障害に対する社会的な認知度・理解の向上を目指した啓発活動にも尽力する。

第28回日本顔学会大会 (フォーラム顔学2023) は、2023年10月14日 (土)、15日 (日) につくばカピオ (つくば市) において対面とオンラインのハイブリッド形式 (予定) で開催いたします。顔に関する研究に加え、インタラクションや感性に関する研究など、顔学に寄与する・寄与しうる研究を広く発表がされると同時に、顔学にふさわしい特別講演があります。初日は、高精度な顔認証技術と顔認証システムとしての実用化を主導してきたNECフェローである今岡仁氏 (NEC)、2日目はトリーチャーコリンズ症候群の当事者で、聴覚障害研究者である石田祐貴氏 (筑波大学) のお二人にお話しして頂きます。今回のNow the Faceは社会の在り方、ダイバーシティやSDGsの視点から「顔」について石田先生に寄稿いただきました。

皆様は「トリーチャーコリンズ症候群 (Treacher Collins syndrome)」という疾患をご存知でしょうか? トリーチャーコリンズ症候群とは、先天性異常症候群の一種で、出生率は約1~5万人に1人の割合といわれており、顔面の骨の形成不全が典型的な症状としてみられる遺伝子疾患です。これが私の病名となります。

個人差はありますが、頬骨や下顎骨の形成不全、外耳の奇形、外耳道の閉鎖、下眼瞼の欠損等の特徴がみられ、聴覚障害や呼吸障害、発音障害、口蓋裂等の障害を併発する割合も高いことが医学的に示されています。何よりも一番の特徴としては、掲載されている私の顔写真を見ていただいてもわかる通り、特徴的な顔貌になることでしょう。普通に街中を歩いているときでさえ、他者から好奇な視線がそそがれることが多くあります。初対面の人に避けられて人間関係が築きにくかったり、子どもから心ない言葉を直接投げかけられたりといった経験も少なく、自身が子どもの頃には、心の整理がつかず、そのような現実をなかなか受け入れられない辛い時期も過ぎました。

「見た目が9割」といわれるように、顔が第一印象やその後の関係、評価に与える影響は少なくありません。また、「イケメン」や「美人」といった印象を判断する現代社会の基準となっているのは、メディアやSNS等の影響を受けて作られる価値観であり、これらは無意識のうちに我々の中で形成され、社会に根付いています。このような外見至上主義が強く残る

社会は、特徴的な顔である私のような人々が抱える生きづらさを一層助長することとなります。

ひとりひとり違って当たり前のはずである「顔」なのに、なぜ私のような顔だと好奇な視線が向けられ、時には差別や偏見まで引き起こしてしまうのでしょうか? 近年、生まれつきのアザや形成不全、あるいは事故や病気による傷、火傷、脱毛等、「見た目 (外見)」の症状がある人たちが、「見た目 (外見)」を理由とする差別や偏見、いじめといった社会で直面してしまう問題を「見た目問題」と総称し、問題提起がなされています。人権問題の一つとして取り上げられることもあり、メディア等からも注目されつつあるテーマとなっています。

この問題は、今後の社会目標として掲げられている「ダイバーシティ」やSDGsで掲げられた目標の一つ「人や国の不平等をなくそう」にも関わる問題でもあると考えます。2022年の新語・流行語大賞に「ルッキズム」がノミネートされたように、近年では我が国においても、外見のみを重視して人を判断したり、容貌や容姿を理由に差別的な扱いをしたりすることを問題視する考えも徐々に広がりつつあると思いま



す。さらにテレビでの容姿いじりが少なくなったり、ミスコンのようなイベントも変わりつつあったり、社会も変化しつつありますが、人々の意識レベルではまだまだ根強く残っているように感じます。「見た目問題」は、意識的には見目で評価していないつもりでも、無自覚に見目で差別や偏見を持ってしまうケースも多く、根本的な解決が難しい、人間の本质にも関わるような深い問題でもあります。

大会講演では、生まれつき特徴的な顔で生きてきた私のこれまでを振り返りながら、自分の「顔」に対する向き合い方の変容

## 顔学オンラインサロン報告 (第46回～第50回)

顔学オンラインサロンは、イブニングセミナーの開催されない月にzoom方式により継続しています。

### ○第46回 2023年5月9日(火)

テーマ：仏像のいいお顔

話題提供者：長岡 龍作氏(東北大学大学院 文学研究科総合人間学教授)  
参加者の事前・事後のアンケート評価得点も交えながら、国宝の仏像などの「お顔」について紹介いただいた。

### ○第47回 2023年6月6日(火)

テーマ：自画像を描こう～中学校美術科の学習

話題提供者：那須 弘子氏(元愛知県美術科教諭)  
中学校の美術科の授業で自画像を描くことにほとんどの生徒が拒絶反応を示すのは何故か。現代の中学校での自画像制作の事例を紹介いただいた。

### ○第48回 2023年7月11日(火)

テーマ：集中線は驚きを強める～マンガ表現の心理学

話題提供者：本多 明生氏(静岡理工科大学情報学准教授)  
マンガではキャラクターの動きや心理描写のための方法の一つに集中線があるが、その表現の感情認知への影響を紹介いただいた。

や「見た目問題」に対する考え方についてお話をさせていただきたいと思えます。さらに新型コロナウイルス感染症の影響によるマスクの着用、IT技術の進歩によって普及した顔認証等、近年の社会変化との関連にも触れつつ、大会参加者の皆様と共に「顔学」ならびに学術研究の視点から、特徴的な顔にまつわる事柄について考えていければと思っております。(石田 祐貴)

\*NECフェローである今岡 仁氏の特別講演は10月14日(土)の15:40～16:40からあります。是非こちらもご聴講ください。

### ○第49回 2023年8月8日(火)

テーマ：顔学と私・顔学会について思うこと

話題提供者：金 知栄氏(京都芸術大学大学院修士2年)  
奈部川 貴子氏(美容ジャーナリスト/鍼灸師・フェイシャルセラピスト)  
金氏から「絵本における群衆表現」などの研究テーマについて、奈部氏から顔のツボ押しなどの指導などの話題提供をいただいた。

### ○第50回 2023年9月12日(火)

テーマ：人々のための顔～顔の技術と社会受容性

話題提供者：鈴木 健嗣氏(筑波大学システム情報系教授)  
つくばカピオでの第28回フォーラム顔学(10月14日・15日)の見どころ、聴きどころと、筑波大学での研究内容などの紹介をいただいた。(城戸崎 雅崇)

## 関西支部 第4回研究会 人を見ただ目で判断すること：我々は「ルッキズム」をどのように捉えるべきか？



2023年8月5日(土)大阪樟蔭女子大学で関西支部第4回研究会を開催し、60名を超える方にご来場いただきました。今回の研究会では、日本顔学会の重鎮の3名の先生のご講演の後、「ルッキズムをどう捉えるべきか？」についてパネルディスカッションを行いました。

まず、日本顔学会会長で、武庫川女子大学薬学部客員教授である菅沼 薫先生から「美容からみたルッキズムー美容はルッキズムを助長しているのかー」というテーマでご講演いただきました。菅沼先生曰く「美容はすべての人に平等に施されるもので、どんな人にも寄りそうもの。だからこそ、これまで美容の中にはルッキズムという考えは存在してこなかった。」というお話とともに、直前にNHKで放送された「自分の見た目が気になる時に読む本」という番組で紹介された3冊の本を取り上げ、自分の見た目を気にすることから脱却するには、「ありのままの自分で良い」と思える自己肯定感を持つことが鍵になるのではないかとのお話をいただきました。

お二人目の甲南女子大学の米澤 泉先生からは「SNSとSDGsの狭間でZ世代のルッキズムー」というテーマで、これまでの日本女性の見た目に対する考え方の変遷をご紹介いただきました。現在のZ世代女子

は、「見ただ目で選んで何が悪い？」という1990年代の価値観と、「見ただ目で判断するなかれ!」「ありのままの自分で良い」という2010年以降の価値観の両方を持っていて、場面や相手によって使い分けしているように思うという興味深いお話しでした。

最後は、日本顔学会副会長で東北大学大学院の阿部 恒之先生から「ルッキズムと顔学ーパフォーマンスという視点ー」というテーマで、心理学的、哲学的なアプローチのお話も交え、魅力研究の側面からもルッキズムの解明を試みていただきました。そもそも動物の魅力は、健康な個体を見分ける方法として本能的に備わっているものであるのに、なぜ人間だけが外見至上主義に嫌悪感を感じるのか? という問いに、いろいろな視点から考察していただきました。

違う分野の先生が、それぞれの方向からルッキズムについて語ってくださり、より深くルッキズムを考えられるようになったその一方で、あまりにも深い話をしてくださったため、正直、より混乱してきた感もありませんでした。混乱のままパネルディスカッションに突入しましたが、皆様の積極的な発言のおかげで、今回の研究会の小括として「ルッキズムの是非」という側面だけで考えるのは限界があり、「人の評価を上げる」という視点の両面から考えるべきものではないかということに落ち着いた、有意義なパネルディスカッションになりました。懇親会では、「難しかったけれど楽しかった」というお声を多くいただき安堵しました。「ルッキズム」という言葉の日本語の意味は、まだ確立されていないので、これから日本顔学会でさらに議論を深め、現代用語の基礎知識に我々の定義づけが採用されることを狙っています。



改めて、ご講演いただいた先生方、猛暑の中ご参加いただいた皆様、そして手弁当でご準備いただきました実行委員の皆様方に心から感謝申し上げます。最後になりましたが、共催

## 美人画研究会 (第30回)

2023年7月2日(日) <会場：森下文化センター>

◆テーマ『味覚と美人画』

- 1) 畑江 麻里  
江戸の味(うなぎ、寿司、天ぷら、そば)をテーマにした浮世絵の名作を紹介。
- 2) 松永 伸子  
美味しい顔とは、目を閉じて上を向き口角を上げた顔ではないか、ということから、ロセッティの絵や村田旭先生の絵に導かれて、ギリシャ神話のペルセポネが冥界でザクロを食べる姿を描いてみた。果物を食べている姿ではなく、美味しさを想像できる顔を表現しようと心がけた。
- 3) 井出 晴海  
ダリがロゴをデザインしたというスペインの「Chupa Chups」(棒付きキャンデー)と、和田誠デザインの「hi-lite」(タバコ)について動画を交えて解説。キャンデーバーを啜った美人とタバコを啜った美人を描く。
- 4) 城戸崎 雅崇  
味覚の一つとしてお酒を取り上げ、モネやフェルメールの絵を紹介。「帰らざる河」のマリリンモンローをバーボン・ウイスキーのポスターを背景にして描く。
- 5) 東観崎 繭  
小倉遊亀の、菓子を手前にした和服の女性を描いた「婦女」が、究極の美味しさを感じさせる作品だと思ひ、それをアレンジした絵を描いてみた。
- 6) 吉村 真由美  
美味しく食べる顔の似顔絵は、目をそらす、口を尖らす、前のめりに、肩をすくめる、と教えているので、それに沿ってスイカを食べている美人を描いてみた。結果的にスイカに力を入れすぎてしまった。
- 7) 河合 直樹  
カラバジジョのバックス、マチスの赤い食卓と、日本感性工学会の味覚と形に関する研究を紹介。国立新美術館の「日象展」で入賞した3人の女性を描いた油彩画をベースに「甘味、辛味、酸味」を表現してみた。



## 化粧文化研究者ネットワーク研究会報告 (第63回)

### 第63回研究会

「プリントシール機を通して見る若年女性の顔文化」

日時：2023年7月1日(土)

講演者：小林 潤一氏

(フリー株式会社 プリントシール機事業部 企画開発部 技術開発課)

本研究会ではフリー株式会社を訪問し、プリントシール機を体験し、その技術開発を担っている小林潤一氏からお話を伺った。

プリントシール体験では、最新のプリントシール機を体験させていただいた。プリントシール機で遊ぶ体験は大変面白く何度もメンバーを入れ替えながら撮影した。筆者はプリントシール機で撮影するのは十数年ぶりだったこともあり、初期設定の仕上がりでも十分に盛れていると感じた。しかし、プリ現役時代の学生参加者の様子からは、落書き機能の顔補正のこだわりが強く、その機能を使いこなして「盛り」を最適化していた様子が印象的であった。

講演では、はじめに、プリントシール機の仕組みを説明いただき、次いで、撮影と画像処理のこだわりを中心にお話をいただいた。照明の配置は顔を魅力的に見せるためのノウハウの塊であること、開発者によって社内でもスタイルや個性が出るこ



いただいた樟蔭美科学研究所/大阪樟蔭女子大学および武庫川化粧品イノベーションセンター(M-COSMIC)/武庫川女子大学薬学部に深謝いたします。(南野 美紀)



- 8) 斎藤 忍  
味覚を感じる絵を、食べ物や全く描かないで表現しようと3人の女性の絵を描いた。どんな味を想像しますか。(斎藤さん独自の、目が口、口が目になっているようなユニークな作品ぞろい=筆者)
- 9) 成瀬 康人  
食欲をそそるイメージとして岡田健三「婦人像」、海老原喜之助の「さんま」を運ぶ女性などと、自作の女性を描いた陶器を紹介。
- 10) 麻生 りり子  
顔面「翁」(美味しい)「大飛出」(辛い)「猿飛出」(酸っぱい)「弱法師」(目をつぶって味わう)を紹介。「酸っぱい」という紹介の声が真に迫る=筆者)
- 11) 小山 えりこ  
オムライスを食べる嬉しそうなお子さんの絵(iPhoneで作成)などを紹介。

追記：初めて「フォーラム顔学」で松永伸子さんの発表を聞いて共感を抱き、「美人画研究会とは？」と質問した時、畑江麻里さんと二人で旗揚げしたばかりとのお答えだった。それから早くも30回目となる。定例メンバーが回を追って増えてきたのはお二人の類を見ない行動力と人間的魅力の賜物である。(城戸崎 雅崇)

### ★美人画研究会よりお知らせ

今回の「味覚を感じる美人画」について、顔学的な連携ミーティング(Zoom利用)を10月31日に開催いたします。様々な味覚を感じる顔、顔はどのような表情をしているのでしょうか? 持論をお持ちの方、研究されている方のご参加を募集しておりますので、是非ご連絡ください。第31回美人画研究会を11月26日に開催いたします。テーマは「触覚を感じる美人画」です。詳細はメーリングリストでお知らせいたします。ご興味のある方は是非ご参加ください!!

美人画研究会のホームページに、これまでの研究会の内容を掲載しています。どうぞご覧ください。

➔ <https://bijingakenkyukai.jimdofree.com/>

